

推薦を甘く見ちゃあいけません！

今回は『推薦』の話です。東商生の多くは、推薦入試で進学を決めています。様々な入試制度がある中で、**東商生は推薦やAOを利用する生徒が多くなっています**（あくまでも東商生は、です。主流は一般入試です）。また、推薦というと進学だけにとられがちです。確かに、話の中心は進学になっていますが、**東商の場合は就職も関係してきます**。改めて『推薦』の意味と『推薦される』ということはどういうことか考えてみてください。

そもそも推薦って言葉の意味を知っていますか？辞書によると「**よいと思う人や物事を他人に勧めること**」となっています。つまり、「**キミのことをよい生徒だと思うので、大学(企業)側に勧める**」ということです。もう少し言葉を足せば、キミという人物が良い人物であるというふうに、誰かが保証してくれるということです。



ところで、**誰がキミを「推薦」するんでしょうか？**担任の先生？学年の先生？学年主任の先生？進路指導部の先生？進路指導部長？

答えは全てNOです。先生たちに、最終的な推薦の責任を受け持つだけの権限は任されていません。キミたちを推薦するのは、学校です。学校の全責任を負っているのは、今も昔も校長先生です。つまり、「**学校が、キミという人物を保証するから、大学に出願させる**」これが推薦入試の根本です。まず、勘違いしてはいけないのは、「自分は推薦基準をクリアしているから、推薦してもらえる」などと思わないことです。

基準（たいがいの場合は成績）をクリアしているからと言って、**推薦してもらえるとは限りません**。推薦するというのは、キミという人物を保証するということです。一口に保証と言いますが、**人物の保証というのは、相当に怖い行為**です。私が保証した人物が何か悪さをしたら、その責任は本人ではなく、私に降り掛かります。たぶん、もう**私は二度と信用してもらえないでしょう**。少なくとも、私が誰かを推薦しても、もう誰も信じてくれません。**信用を失うというのは、社会では致命的です。**

就職も同じです。学校では「高卒者を求める企業の斡旋」をしていますが、東商では必ず「推薦状」を添付します。「ぜひ東商生を採用したい」という企業が多いため、「**学校が、キミという人物を保証するから、企業に出願させる**」のです。**成績が良いから、資格をたくさん持っているから、部活動を一所懸命やっていたからだけでは出願できません。**

キミが推薦入試でめでたく進学・就職したとして、そのあと何かよろしくないことをした場合、その責任は誰が取るのか？もちろん学校です。そのかわり学校は、もう信用してもらえません。**もう2度と東商からの推薦は受けしてもらえません。**

人物を推薦するというのは、そういう怖い行為です。リスクیと言ってもいいでしょう。となれば、もしキミが推薦基準に達していたとしても、**キミのこれからにささかでも不安があれば学校はキミを推薦しないかもしれません。**

では、どんな生徒が「不安」なのか？一言でいえば、これまでの生活に問題点のある生徒です。

学校の指導（例えば服装など）に従わない。遅刻を繰り返す。掃除や作業をサボる。提出物の期限を守らない。問題行動を起こす。授業に取り組む姿勢が悪い etc.



推薦は受かりやすくラクだと信じている人が結構いるのですが、もし推薦が本当に受かりやすいとしたら、それは東商という高校がキミという人間を保証してくれているから、敷居が低くなっている（入りやすくなっている）ということです。

最近では、こちらがお願いしなくても勝手に推薦基準を下げて、推薦されやすく（合格しやすく）なっている大学・専門学校が増えています。さらに「学校から推薦されなくてもいいですよ」という大学・専門学校も増えています。いわゆるAO入試というヤツです。

なぜ基準を下けているか？それは学生を集めたいから以外の何ものでもありません。学生が入学してくれないと経営が傾いてしまうからです。わかりやすく言えば潰れてしまうのです。

勉強熱心でなくても、生活状況が良くなくても、就職できなくても、一時に何十万という入学金や年間100万円もの学費が人数分入ればOKなのです。

学校の信頼というのは、長年かけてキミたちの先輩が作ってきたものです。学校は、その財産を継承し発展させてくれる生徒を推薦したいのです。少なくとも、ブチ壊す心配のある生徒は、どんなに成績優秀でも、推薦したくないのです。

今、もし、校内選考に関して厳しいことを言われて面白くないという人がいたら、これまでの自分の高校生活を冷静に振り返ってみてください。今までの自分を、赤の他人が責任を負ってまで保証してくれるか？そう問われて、少しでも考え込むようなら、キミにはまだまだ見込みがあります。

就職活動速報！！

10月4日現在

学校校幹旋希望者	101名
第一陣受験者	97名（9月中旬に受験した人数）
内定者	62名
内定率	61.4%（内定者÷学校校幹旋希望者）
決定率	78.5%（内定者÷試験結果判明者）



9月16日の就職試験解禁から、1ヶ月が過ぎようとしています。3年生の就職試験の結果が続々と届いています。昨年同時期の内定者数は40名程度でした。数字だけを見ると大変良い状況にあると言えます。少しエンジンがかかるのに時間がかかった感じがしますが、しっかりと取り組んだ成果が表れていると思います。頑張りました。内定をいただいた人は、今後の生活をしっかりとしてください。残念だった人は、気持ちを切り替えて「ご縁のある企業」に向かいましょう。

公務員試験は、一次試験がほぼ終わりました。一次試験を突破した人は二次試験に向けての準備に必死です。最近では二次試験重視の傾向が見られます。作文・面接・グループワークなどを通して適性や人間性を審査されるようです。1・2年生は、筆記試験だけではなく、作文試験の対策も今から始めておくとういでしょう。